

患者氏名 :  
患者 ID :

## 造影剤を用いる MRI 検査に関する説明書

### 1. 造影MRI 検査の副作用について

MRI 検査で使用する造影剤は、主にガドリニウム製剤です。肝臓の検査を行うときには、目的によって鉄製剤を用いる事があります。検査において造影は必ずしも全ての場合に起こるものではありません。必要性は病気の種類によって異なります。ガドリニウム製剤は、副作用が少ないことが知られていますが極めてまれに重い副作用が生じることがあります。以下のような禁忌および副作用がありますのでご承知おきください。

(1) 造影剤使用の禁忌（造影剤を使用してはならない場合）

- ・ガドリニウム造影剤に過敏症がある方

(2) 造影剤使用の原則禁忌（造影剤を使用しない事を原則とするが、適応がある場合には慎重に投与する）

- ・喘息（ぜんそく）の方
- ・重篤な肝障害・重篤な腎障害のある患者
- ・一般状態の極度に悪い患者

(3) 造影剤の慎重投与：以下の場合には慎重に投与する必要があります。

- ・アレルギー性鼻炎・発疹、じんましんなど、アレルギーを起こしやすい体質を有する患者
- ・両親・兄弟が、以下の疾患を有する患者  
(気管支喘息・アレルギー性鼻炎・発疹・じんましんなど、アレルギー)
- ・薬剤過敏症の既往歴のある患者
- ・既往歴を含めて、痙攣・てんかん、およびその素質のある患者
- ・高齢者および乳児・小児

(4) 造影剤の副作用

- ・軽い副作用

【吐き気・動悸・頭痛・かゆみ・発疹など】特に治療を要しないことが多い。

- ・重い副作用

【呼吸困難・意識障害・血圧低下など】治療が必要で、後遺症が残る可能性があります。

※入院や手術が必要な場合があります

※極めてまれに死亡することもあります。

患者氏名 :  
患者 ID :

## 2. 造影剤について

### (1) 造影剤（カドリニウム製剤）とは

MR検査の場合、一般的には、最初に造影剤を使わずに撮影します。（単純MRI検査）。続いて、静脈から造影剤を注入して、撮影を行います。（造影MRI検査）。造影剤は、血液の豊富な組織に分布します。その分布の仕方を分析して病気の診断を行います。

※MRI用の造影剤は、CT用の造影剤とまったく異なる成分です。

造影剤は、ほとんどが1日以内に、腎臓から尿中に排泄されます。したがって腎臓の機能が低下している場合、排泄が遅くなるだけでなく腎臓の機能がいっそう低下することがあります。腎機能低下がある場合は慎重な対応が必要です。

### (2) 造影MRI検査を行うことによる利点

単純MRI検査に、造影MRI検査を加えることにより、以下に述べるさまざまな利点があり、よりいっそう正確な画像診断が可能となります。そのため副作用発生の可能性が高くなる場合でも、造影MRI検査による診断が必要な場合、医師は造影検査を勧めることがあります。

- A) 血管の詳しい情報を得ることができる。（例）閉塞、狭窄、血管奇形、解離などの診断および腫瘍と血管の関係の把握（ただし、頭部、頸部の血管検査（MRA）では造影剤を用いることは、ほとんどありません）
- B) 各種臓器の血流の情報を得ることができる。（例）腎臓、脾臓の梗塞の診断など。
- C) かたまりをつくる病気（腫瘍・膿瘍）などの検出が容易になる。（例）肝腫瘍や腎腫瘍の検出など。
- D) 病変の性状の画像診断に有用である。（例）肝腫瘍の良悪性の鑑別や悪性腫瘍・血管腫・膿胞の鑑別など。
- E) ほかにも病気の種類によって多くの利点があります。

患者氏名 :

患者 ID :

## (3) MRI 検査の実際、および、検査を受ける際の注意

造影検査中は、放射線科医師、診療放射線技師、看護師が常に観察し、何か異常が現れた場合すぐに対処できるようにしています。また、異常をすぐに知らせるようにブザーをお渡ししています。

造影剤を勢いよく注入すると、血管から漏れることがあります。検査中はできるだけ腕を動かさないでください。漏れても、時間とともに吸収されるので通常処置は必要ありません。(ただし、大量にもれると、処置が必要になる場合がありますが非常にまれです。)

※上記の内容につき十分な説明を受け、理解しました。

年 月 日

署名欄